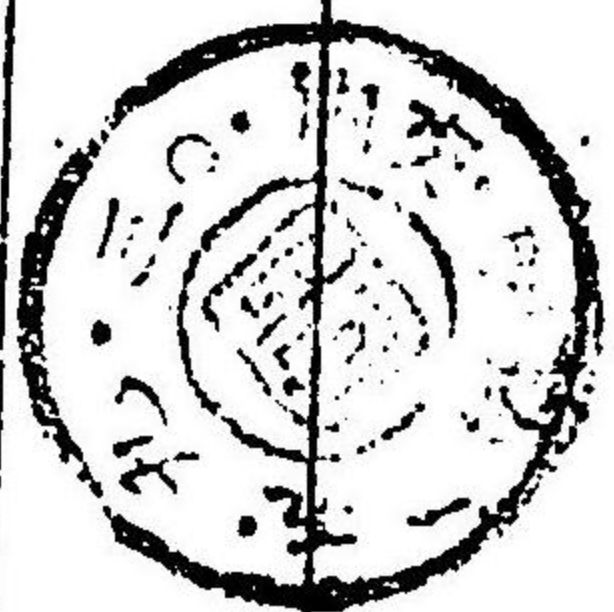


みそきはらひ

身 禊 祓 詞



たかまのはらに、かむづまひます、かみろ

高 天 原 二、神 留 座 ス、神 漏

ぎ かみろみのみこともちて、すめみおや

岐 神 漏 美 命 以 テ、皇 親

かむいざなぎのみことついでこのひむかの
神伊佐奈岐命、筑紫ノ日向ノ
たちはなのをどのあはぎはらに、みそぎ
橋ノ小門ノ檣原ニ、身禊
はらひたまふときにあれませるはらひど
祓賜フ時ニ生座ル祓戸

のおほかみたち、もろくのまがことつみ
大神等、諸ノ枉事罪
けがれを、はらひたまひきよめたまへど
穢チ、祓ヒ給ヒ清メ賜ヘト
まをすことどのよしを、あまつかみくにつ
白ス事ノ由チ、天津神國津

かみ、やほよろづのかみたちととも、あま
神、八百萬神等共ニ、天
のふちこまの、みふりたててきこし
ノ班駒ノ、耳振立テ所聞
めせど、かしくみかしくみもまをす、
食ト、畏ミ畏ミモ白ス。

おほはらひ

大 祓 詞

たかまのはらに、かむづまります、すめ
高 天 原 爾、神 留 坐、皇
みおやかみろぎかみろみの、みことともちて、

親 神漏岐神漏美乃、命 以 氏、

やほよろづのかみたちを、かむつぎく

八百萬神等乎神集

つごへたまひかむはかりはかりたまひて

集賜比神議議賜氏

あがすめみこのみこととは、やよあしはらの、

我皇御孫之命波豊葦原乃

みづほのくにを、やすくにやたひらけく、

水穗之國乎安國止平久

しろしめせや、こよよたこまつりき、かく

知所食止事依志奉岐如此

よさこまつりこくぬちにあらぶるかみ

依志奉志國中爾荒振神

どもをばかむやはこにやはこしたまひ、かむ

等 乎波 神問 志爾 問 志 賜、神

はらひにはらひたまひて、こやよひこ

掃 掃 賜 比氏、語問 志

いはぬこたち、くさのかきはをも、こや

磐根樹立、草之垣葉 乎毛、語

やめて、あめのいはくらはなり、あめの

止 氏、天之磐座放、天之

やつくもを、いつのちあきにちあきて、

八重雲 乎、伊頭乃千別 爾 千別 氏

あまくだしよさこまつりき、かくよさこ

天降 依 左志 奉 支、如此久依 左志

まつりし、よものくになかと、おほやまと

奉志の四方之國中登の大倭

ひたかみのくにを、やすくにとさだめ

日高見之國乎の安國止定

まつりて、したついはぬに、みやばしら

奉氏の下津磐根爾の宮柱

ふとしきたて、たかまのはらに、ちぎたか

太敷立の高天原爾の千木高

しりて、すめみこのみことの、みづのみ

知氏の皇御孫之命乃の美頭乃御

あらかつかへまつりて、あめのみかげひ

舎の社の奉氏の天之御蔭日

のみかげぞ、かくりまとして、やすくとせ
之御蔭止、隠坐氏、安國止
たひらけく、しろしめさむくになかに、
平氣久、所知食武國中、爾爾
なりいでむあめのますひどらが、あやまち
成出武、天之益人等我、過

おかしげむくさぶさのつみごやは、あま
犯家、雑雑、罪事波、天
つつみや、あはなちみぞうめ、ひはなち
津罪止、畔放、溝埋、樋放
しちちちいせい、いけはぎさかはぎ、
類、蒔串刺、生剥、逆剥、

くそへことだくのつみを、あまつつみと
屎戸許許太久乃罪 平の天津罪止
のりあけてくにつつみとはいきはだたち
法別 氣氏の國津罪止八生膚斷
しにはだたち、しらひとくみ、おのれが
死膚斷、白人胡久美、已

はをよおかせるつみ、おのれがこをおか
母犯 罪、已 子犯
せるつみ、はとことおかせるつみ、こと
罪、母與子犯 罪、子與
はとことおかせるつみ、けものおかせるつみ、
母犯 罪、畜犯 罪、

はふむこのあざはひ、たかつかみのあざは

昆虫 乃 災 高津神 乃 災

ひ、たかつとりのあざあひ、けものたふし

高津鳥 災 畜 仆 志

まじものせるつみ、こゝだくのつみいでむ、

蠱物 爲 罪 許許太久 乃 罪 出 武

かくいでは、あまつみやこともちて、おほ

如此出 波、天津宮事 以 氏、大

なかとみあまつかなぎを、もとらちきり、

中 臣 天津金木 乎、本 打 切、

すゑらちちて、ちくらおきくらに をき

末 打 斷 氏、千座置座 爾 置

たらはして、あまつすがそを、もとかり

足波志氏天津菅曾乎本 莉

たちすゑかりきりて、やはりにやりのたをて、

斷末莉切氏八針爾取辟氏

あまつのりとの、ふやのりやじをのれ、

天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮の

かくのらば、あまつかみは、あめのいは

如此久乃良波天津神波天磐

とおしひらきて、あめのやへもを、い

門乎押披氏天之八重雲乎伊

つのおあきにちあきて、きこしめさむ、

津乃千別爾千別氏所聞武

くにつかみは、たかやまのすゑみとかやま
國津神波、高山之末 短山
のすゑに、のぼりまして、たかやまのいぼ
之末爾上 坐氏高山之伊穗
り、みとかやまのいぼりき、かきあけて
理短山之伊穗理乎、搔別氏

きこしめさむ、かきこしめしてば、すめ
所聞食武、如此所聞食氏波、皇
みこのみこと、みかどをはじめて、あめ
御孫之命乃、朝廷乎始氏、天
のしたよものくには、つみといふつみは、

下四方國爾波、罪止云布罪波

あらむじや、しなごのがせの、あめのやへ
不在止の科戸之風乃の天之八重
くもを、ふきはなつこむのこむへ、あした
雲 乎の吹 放 事 之如久の朝
のみぎり、ゆふべのみぎりを、あさかぜ
之御霧の夕之御霧乎の朝 風

ゆふかぜの、ふきはらふこむのこむへ、
夕 風 乃の吹 掃 事 之如の
おほつべにをる、おほぶねを、とときはなち
大津邊 爾居の 大 船 乎の 舳 解放
ともしきはなちて おほうなばらに、おし

艦 解放 氏 大 海 原 爾の 押

はなつことのごやう、をちかたのしげきが
放事之如久、彼方之繁木
もとを、やきかまのとかまもちて、うち
本手の焼鎌乃敏鎌以氏の打
はらふことのごやう、のこれるつみはあら
掃事之如久の遺罪波不

こと、はらひたまひきよめたまふことを、
在止の祓給比清給事手の
たかやまのすゑ、みとかやまのすゑより、
高山之末、短山之末與理の
さくさだりにおちたぎつ、はやかはのせに
佐久那太理爾落多岐都、速川能瀬

ます、せおりつひめといふかみ、おほうな

坐須、瀬織津比咩止云神、大海

ばらに、もちいでなむかくもちいでいなば、

原爾、持出奈武如此持出往波

あらしほの、しほのやほぢの、やしほぢの、

荒鹽之、鹽乃八百道乃、八鹽道之、

しほのやほあひにます、はやあきつひめと

鹽乃八百會爾座須、速開都比咩止

いふかみもちかかのみてむ、かくかか

云神持可可吞氏牟、如此久可可

のみてば、いふさぎにます、いふさぎぬし

吞氏波、氣吹戸爾坐須、氣吹戸主

といふかみ、ぬのくにそこのくにに、い
止云 神、根 國底之國 爾、氣
ふきはなちてむ、かくいふきはなちてば、
吹 放 氏 牟、如此 久 氣吹放 氏 波、
ぬのくにそこのくににます、はやさすら
根 國底之國 爾 坐、速 佐須良

ひめといふかみ、もちさすらひうしなひ
比 咩 登云 神、持佐須良比失
てむ、かくうしなひてば、けふよりはじめ
氏 牟、如此 久 失 氏 波、自 今 日 始
てつみといふつみはあらざむ、はらひ、
氏 罪 止 云 布 罪 波 不 在 止、祓 比、

きよむるこゝろをきこしめせよまをす

清

奉

留

事

手

所聞食

止

白

須

うねびのみさゝきををはるかにおかむことば

神武天皇御陵遙拜詞

やまどのたけちのみあがたの、うねびの

大和ノ高市御縣ノ、畝火

やまの、やまもどの、おくついはきを、やこ

山ノ、山麓ノ、奥津石城ヲ、常

みやま、しづまらます、かけまへもかこ
宮ト、鎮座坐、掛卷モ、畏
き、かむやまといはれびこのみこものみ
キ、神倭磐余彦命御
さ、きを、はるばるもをろがみまつりて
陵ヲ、遙々モ拜ミ奉リテ

まをいへ、これのやころをまつりのにはや
白サク、此ノ處ヲ祭場ト
いはひさだめて、いみだけさしたて、しめ
齊と定メテ、忌竹差立、占繩
ひきはゑ、にひごもをいづのむしろと
引延、新菰ヲ伊豆ノ筵ト

かりとまきて、やせりのつゝゑに、みきみけ
蒔敷テ、八取ノ机ニ、御酒御饌
するゑならぶ、ふとだましくさへげて、つかへ
据並、太玉串捧テ、奉
まつらへき、たひらけへやすらへきこと
仕ラクテ、平ケク安ケク所聞

めして、いまもいへきも、おほみよを、
食テ、今モ、以往モ、大御世チ、
いかしみよのたらしみよといはひまつり、
嚴御代ノ足シ御代ト齋ヒ奉リ、
あづかりてつかへまつる、もゝのつかさ
預リテ奉仕ル、百の官

ひとたち、あめのしたのおほみたからに
人等、天 下 百 姓
いたるまでに、やくさみさやぶこやさへん
至ル迄ニ、不 平 喧囂事無ク、
らみのどのも、やさしくこのひやも、らや
海外ノ百八十國ノ人等、踈

びあらぶることなく、あきつみかみと、
ビ荒ブル事無ク、顯津御神ト、
いまのをつゝを、しろしめす、すめらが
今ノ現チ、所知食ス、天皇ガ
おほみこゝろを、やすみこゝろのたり
御震襟チ、安御心ノ足

みこころや、あさひのゑみさかゑて、おほ
御心ト、朝日ノ咲榮エテ、大
ましまさしめたまひ、さきはひたまへや、
座坐シテ給ヒ、幸ヒ賜ヘト、
かしくみかしくみもまをす、
畏ニ畏ニモ奏ス。

すべてのかみをおがむことは

諸神通用神拜詞

かけまへもかしくき

かみ乃な

おほかみの

掛卷

モ

畏

キ

神

名

大神

ノ

おほまへにかしくみかしくみもまをせしへ、

大前ニ恐

ニ

恐

ニ

モ白

サク。

かむながらもあまつかみのみこのみこととの
神隨モ天ツ神ノ皇孫命ノ
あめつちとむだよこしへに、あまつひつぎ
天地ト共無窮ニ天津日嗣
しろしめさむくにのみたまと、やほつおや
所知食ム國ノ御民ト、遠津祖

ゆ、いやしぎしぎにうまれきて、かみと
ユ、彌繼々ニ生レ來テ、神ト
きみとのあつきふかきことひなき、みたま
皇ノ厚キ深キ底ト無キ、御恩
のふゆをかゞふりまつれることこのよし、
頼チ蒙リ奉有ル事ノ由、

おもほへばさきはひのいかなれや、
思ホへバ幸ノ如何ナレヤ、
いやもいやもかしくたふやく、ひやひ
甚モ甚モ畏ク尊ク、一日
かたよきもあすれがてに、かれいほはま
片時モ忘レ難ニ、故レ五百濱

ちはまにあまる、まさごのかずのひやつた
千濱ニ餘ル、真砂ノ數ノ一箇ダ
に、いやまをしまつるや、ひにけにをろが
ニ、報賽奉仕ト、日ニ異ニ拜
みまつらく、すめみこのみことのおほみよ
ニ奉ラタ、皇御子命ノ大御代

を、いかしみよのたらしみよといはひまつ
チ、嚴シ御代ノ足シ御代ト齋ヒ奉
り、みおやのあまつかみのことをしへたま
リ、皇祖天神ノ言誨給
ひつたへたまへるおほみちをきて、あた
ヒ傳へ給へル大道ヲ除テ、他

しをみちにもまどはしめず、うみのこのやそ
シ小路ニ惑ハシメズ、子孫ノ八十
つゞきにいたるまで、おやのなげがさず
繼ニ到ル迄ニ、祖名汚サズ
いゑのなをささず、いかしやくははのこと
家名墜サズ、嚴シ八桑枝ノ如

くたあさかへしめたまひ、あがなすなりを
ク立榮シメ給ヒ、我が爲ス業チ
いやすゝめにすゝめしめたまひ、さきはひ
彌獎ニ獎シメ給ヒ、幸ヒ
たまへどかしくみかしくみもまをす、
給へト畏ニ畏ニモ白ス。

みたまやををがむことば

祖靈舎拜詞

とほつおやのみたま、よよのおやたち、
遠ッ祖ノ靈神、代々祖等、
うからやからのみたまたちのみまへに
親族家族、靈神等ノ御前ニ

まをせいで、あがみよのこや、よんこそかむ
白サク。我が御世ノ事、能コソ神
ならひ、うつしきあをひやぶとせならはず、
習ヒ、宇都志伎蒼生習ハズ、
かみやきみにうるはしく、おやのみこころ
神ト皇ニ善美シク、親ノ御心

にたがはしめず、いへのなりをいやすゝめ
ニ違ハシメズ、家ノ業ヲ彌獎メ
にすゝめしめたまひ、らみのこのやそつゝ
ニ進シメ給ヒ、子孫ノ八十續
きにいたるまでに、きよきたゞしきおほみ
ニ到ル迄ニ清キ正キ公

たからぞ、いかしやくははのこやくたち
民 ト、嚴シ八桑枝ノ如ク立
さかほしめたまひ、よのまもりひのまもり
榮シメ給ヒ、夜守日守
に、まもりたまはひたまへ、をろがみまを
ニ、守 幸 ヒ賜へト、拜ニ申

しましるゝもあす、
シ奉ラクト申ス。

かみごめ

神言

とほかみほみため
刀菩可美咲微他免

明治三十五年九月廿五日印刷

全 年十月一日出版

壹部 定價金六錢

畝火教會本部發行

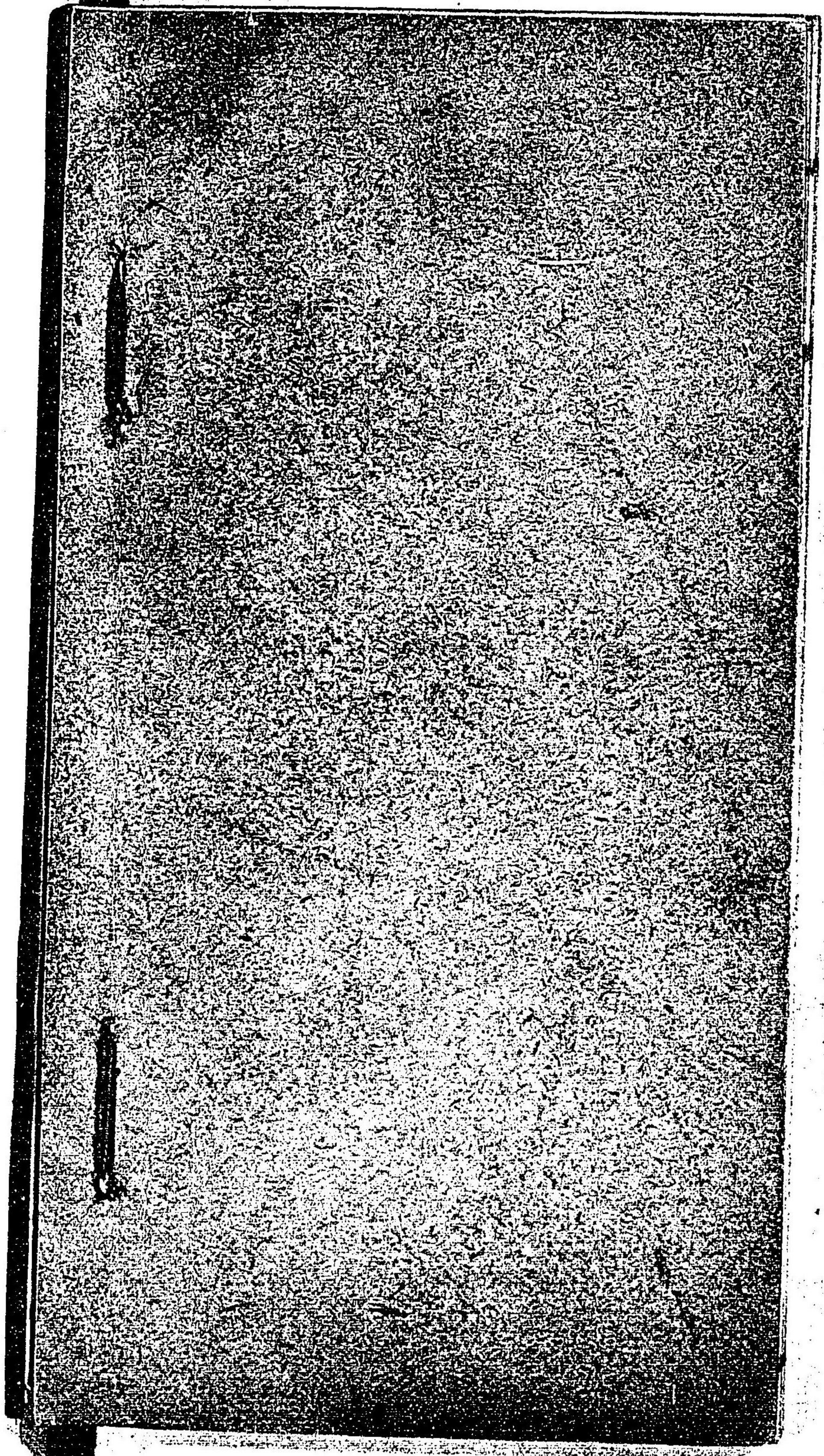
奈良縣高市郡白檀村大字大久保第四十八番地

著者 遠兼 新海 幸

全縣 全郡八木町大字八木番外三拾貳番邸

印刷所

狩谷博成堂



特44

612

014569-000-4

特44-612

祓詞・祝詞

新海 幸/著

M35

ABB-0984

